



鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所 鳥取県鳥取市湖山町東1-122-1
 氏名 株式会社サンインマルイ
 代表取締役 松田 欣也
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

鳥取県地球温暖化対策条例第8条第5項(第9条第3項)の規定により次のとおり提出します。

住所(主たる事業所の所在地)	鳥取県鳥取市湖山町東1-122-1						
氏名(名称及び代表者の氏名)	株式会社サンインマルイ 代表取締役 松田 欣也						
主たる業種	58 飲食料品小売業						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者						
計画期間	平成28年4月 ~ 平成31年3月						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (平成27)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (平成30)年度 (二酸化炭素換算)	増減率	報告年度(実績) (平成30)年度 (二酸化炭素換算)	増減率	
	排出量(1)	7,117.0 t	10,044.0 t	41.1%	10,193.0 t	43.2%	
	実績に対する自己評価	国府店出店とLED化により、電気の使用量を抑える効果があった。排出量もほぼ達成できた。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率	報告年度(実績)	増減率
		二酸化炭素換算	0.03232 t-CO2/m ² ・H	0.03135 t-CO2/m ² ・H	△ 3.0%	0.02651 t-CO2/m ² ・H	△ 18.0%
		二酸化炭素換算			%		%
		二酸化炭素換算			%		%
実績に対する自己評価	LED導入効果と新店の効果で大幅達成することが出来た。						
寄与的取組	取組区分	目標年度(計画)			報告年度(実績)		
		実数値		二酸化炭素換算の削減量	実数値		二酸化炭素換算の削減量
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	(充電量)	kWh	t	(充電量)	kWh	t
		(熱供給量)	GJ	t	(熱供給量)	GJ	t
	再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すもの購入	(購入量)		t	-	-	t
	森林保全による二酸化炭素の排出削減の量等を表すもの購入	-	-	t	-	-	t
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すもの購入	(購入量)		t	(購入量)	GJ	t
削減量等合計(2)			0 t			t	
差異排出量(1)-(2)	基準年度(実績)	7,117.0 t	目標年度(計画)	10,044.0 t	増減率(計画)	41.1%	
	報告年度(実績)	10,193.0 t	増減率(実績)	43.2%			
推進体制	今後もE A21を継続推進。環境対策室を中心に全店の目標を定め、CO2削減を図る。						
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容				
	平成28年度	新店	国府の新店開設が平成29年度に延期となった。				
	平成29年度	LEDの導入	宮長店、アパート店、薬師町店へ導入を実施した。: 新店国府店の開設で、原単位の大幅削減が出来た。				
	平成30年度	空調制御システムの導入	全店への空調制御システムを導入予定は2店に留まった、宮長店の全面改修は延期となった。				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	レジ袋有料化、ばら売りの推進、地産地消など継続して温暖化防止に寄与したい。						
特記事項							

注1 該当する□には、レ印を記入してください。
 2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。
 3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。
 4 主たる業種には、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。
 5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
 6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(生産数量、延べ床面積、走行距離等)を記入してください。
 7 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用などを記入してください。